5707

2019年度
Q2連結累計期間決算説明資料
2019年11月６日

東邦亞鉛株式会社
TOHO ZINC CO., LTD.

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

内容

Ⅰ. 2019年度Q2累計 連結決算概況
1. 収支の状況 P3
2. 財務の状況 P10
3. 資源セグメントの状況 P14

Ⅱ. 個別案件 P15

Ⅲ.通期業績予想（含む配当）及び今後の対応方針 P16

Ⅳ. 2019年度 感応度 P17

Ⅰ．2019年度Q2累計 連結決算概況

1．収支の状況

(1)総括

●下記①～③により、営業利益は77.5億円の赤字となりました。
①亜鉛価格の下落を主因とした製錬セグメントにおける在庫評価損の計上（△34億円）
②東証に適時開示としてリリース（2019年8月9日）した非鉄スラグ製品に関する費用計上（△13億円）
③エンデバー鉱山の減産による加工費負担増、ラスプ鉱山における高品位鉱生産遅れ及び決算期ズレの調整

その結果、経常利益は73.4億円の赤字、CBHエンデバー鉱山の減損7.0億円の計上もあり最終利益は67.0億円の赤字となりました。

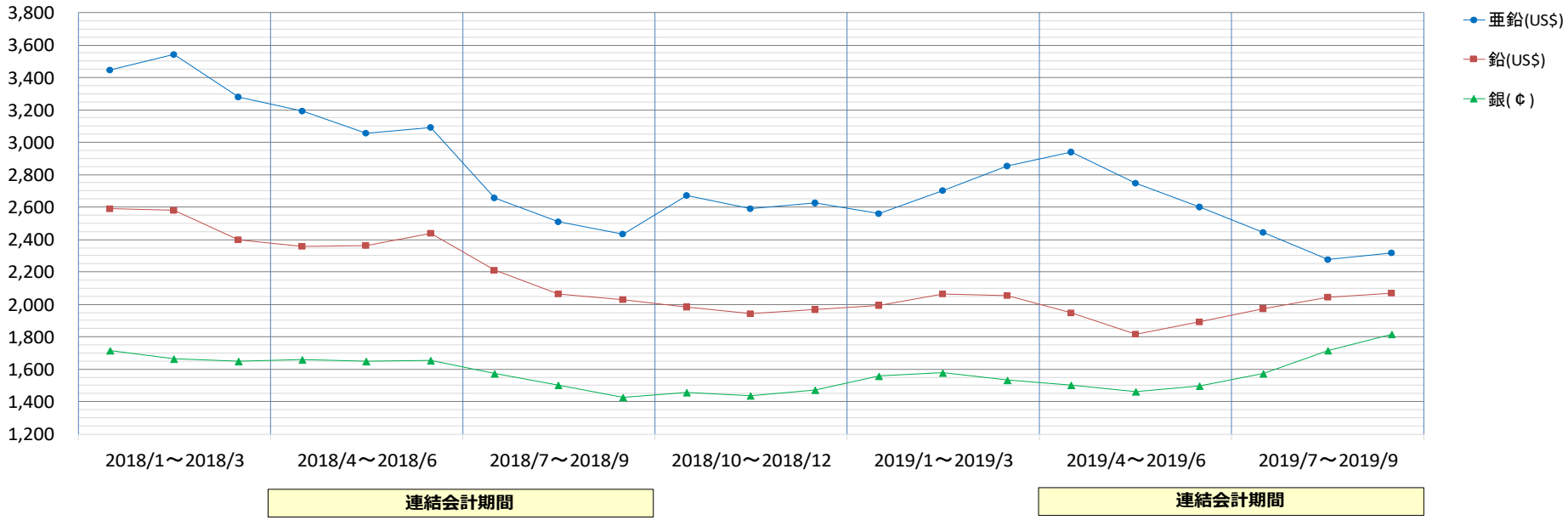
●前年同期比では、金属価格の下落（特にCBH決算期間）に加え、製錬セグメントにおける非鉄スラグ製品に関する費用計上や資源事業におけるエンデバー・ラスプ両鉱山の不調もあり、3利益とも大幅な減益となりました。

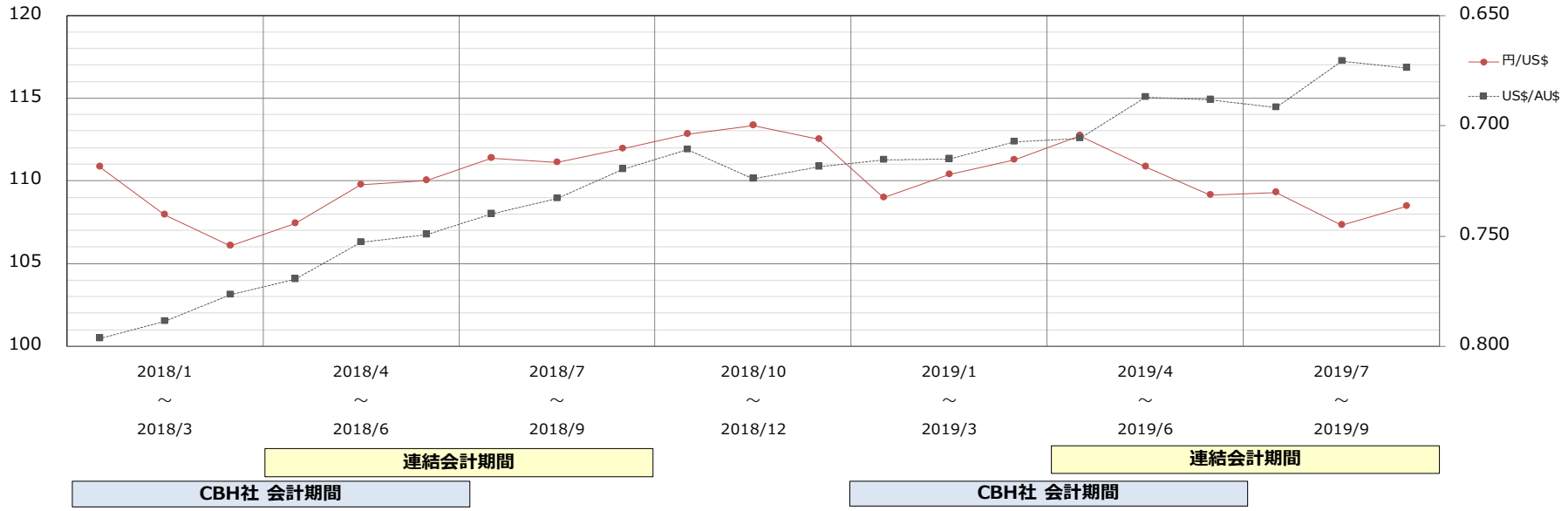
単位:億円

	8/9公表（上期）	11/6上期実績
連結売上高	492	492
連結営業利益	△45.0	△77.5
連結経常利益	△42.5	△73.4
連結純利益	△41.0	△67.0

1．収支の状況

(2)市況推移





1. 収支の状況

(3)8/9公表比較(市況・生産量)

			8/9公表ベース		11/6実績		Q2	増減率（%）
			上期	内Q2（A）	上期	内Q2（B）	（（B）-（A））	
市況	亜鉛(米＄/t)		2,580	2,400	2,554	2,345	△55	△2
	鉛(米＄/t)		1,950	2,000	1,958	2,029	29	1
	銀(米＄/toz)		15.5	16.0	16.0	17.0	1.0	6
	円/米＄		109.5	109.0	108.6	107.4	△1.7	△2
	米＄/豪＄(1-6月)		0.710	0.700	0.710	0.700	0.000	0
製錬セグメント 主要製品生産量	亜鉛製品(千t)		42.6	21.7	43.2	22.2	0.6	3
	鉛製品(千t)		48.6	25.0	47.4	23.7	△1.3	△5
	電気銀(t)		138	77	144	82	5	7
資源セグメント CBH社関連(1-6月)	粗鉱処理量 (千t)	エンデバー	171	79	171	79	0	0
		ラスプ	335	169	335	169	0	0
		計	506	248	506	248	0	0
	亜鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	13.0	5.7	13.0	5.7	0.0	0
		ラスプ	24.6	13.1	24.6	13.1	0.0	0
		計	37.6	18.9	37.6	18.9	0.0	0
	鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	5.7	2.6	5.7	2.6	0.0	0
		ラスプ	12.4	6.4	12.4	6.4	0.0	0
		計	18.1	8.9	18.1	8.9	0.0	0

1. 収支の状況

(4)8/9公表比較(収支)

			8/9公表ベース		11/6実績		Q2
			上期	内Q2（A）	上期	内Q2（B）	（（B）-（A））
売上高(億円)			492	258	492	257	0
営業利益(億円)	製錬		△37.5	0.4	△55.1	△17.2	△17.6
		内、先入先出影響等	△21.7	△0.1	△30.5	△8.8	△8.8
		内、ヘッジ	0.5	0.0	△3.4	△3.8	△3.8
	資源		△17.5	△11.7	△30.8	△25.0	△13.3
	電子部材		3.0	1.8	2.2	1.0	△0.8
	環境･リサイクル		7.5	3.5	5.0	1.0	△2.5
	その他　※		0.5	0.4	2.1	2.0	1.6
	調整額		△1.0	0.5	△0.8	0.6	0.2
	計		△45.0	△5.2	△77.5	△37.7	△32.5
経常利益(億円)			△42.5	△6.6	△73.4	△37.4	△30.9
純利益(億円)			△41.0	△11.4	△67.0	△37.4	△26.0
EBITDA(億円)			△12.4	11.3	△44.2	△20.5	△31.7

※「その他」に係る営業利益には、「土木・建築・プラントエンジニアリング」セグメントに係る営業利益を含む。

1. 収支の状況

(5)前年同期比較(市況・生産量)

			前年同期	Q2累計	差(実額)	差(%)
市況	亜鉛(米＄/t)		2,824	2,554	△270	△10
	鉛(米＄/t)		2,245	1,958	△287	△13
	銀(米＄/toz)		15.8	16.0	0.2	1
	円/米＄		110.3	108.6	△1.6	△1
	米＄/豪＄(1-6月)		0.774	0.710	△0.064	△8
製錬セグメント 主要製品生産量	亜鉛製品(千t)		47.8	43.2	△4.6	△10
	鉛製品(千t)		44.8	47.4	2.6	6
	電気銀(t)		153	144	△9	△6
資源セグメント CBH社関連(1-6月)	粗鉱処理量 (千t)	エンデバー	291	171	△120	△41
		ラスプ	368	335	△33	△9
		計	659	506	△153	△23
	亜鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	25.1	13.0	△12.1	△48
		ラスプ	27.9	24.6	△3.4	△12
		計	53.1	37.6	△15.5	△29
	鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	13.0	5.7	△7.3	△56
		ラスプ	13.7	12.4	△1.3	△9
		計	26.7	18.1	△8.6	△32

1. 収支の状況

(6)前年同期比較(収支)

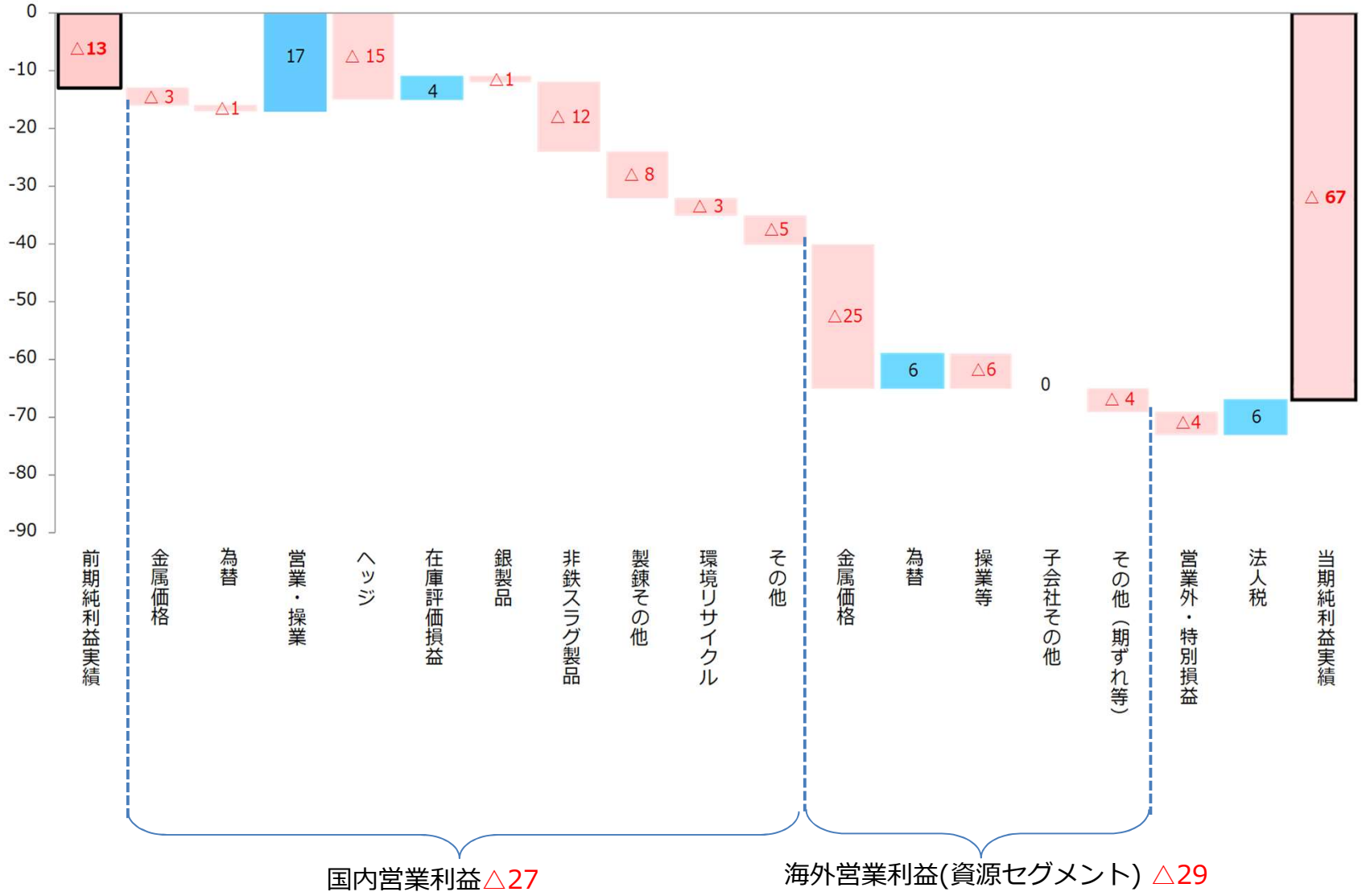
			前年同期	Q2累計	差(実額)
収支	売上高(億円)		585	492	△93
	営業利益(億円)	製錬	△35.5	△55.1	△19.6
		資源	△2.0	△30.8	△28.8
		電子部材	3.1	2.2	△0.9
		環境･リサイクル	7.8	5.0	△2.8
		その他　※	0.9	2.1	1.1
		調整額	4.2	△0.8	△5.0
		計	△21.5	△77.5	△56.0
	経常利益(億円)		△19.3	△73.4	△54.1
	純利益(億円)		△12.6	△67.0	△54.4
	EBITDA(億円)		9.0	△44.2	△53.2

※「その他」に係る営業利益には、「土木・建築・プラントエンジニアリング」セグメントに係る営業利益を含む。

1. 収支の状況

(7)前年同期比較(収支)

単位：億円



2. 財務の状況

(1)貸借対照表(資産の部)

単位：億円

			2019年3月末 実績	2019年９月末 実績	差(実額)
流動資産	現金･預金		102	131	29
	受取手形･売掛金		163	142	△21
	たな卸資産		424	386	△38
	その他		40	59	19
	計		730	718	△12
固定資産	有形固定資産		389	389	0
		内CBH社関係	75	72	△3
		(豪＄百万表示)	(96)	(95)	(△1)
	無形固定資産		119	122	3
		内CBH社関係	118	121	3
		(豪＄百万表示)	(151)	(160)	(9)
	投資その他		64	99	35
	計		572	610	38
資産 合計			1,302	1,328	26

2. 財務の状況

(1)貸借対照表(負債･純資産の部)

単位：億円

			2019年3月末 実績	2019年９月末 実績	差(実額)
負債の部	支払手形･買掛金		71	65	△6
	有利子負債	CP	110	140	30
		短期借入金	118	193	75
		長期借入金	300	301	1
		有利子負債計	528	634	106
	その他負債		148	166	18
	計		747	865	118
純資産の部	株主資本	資本金	146	146	0
		資本剰余金･自己株式	98	98	0
		利益剰余金	210	133	△77
		株主資本 計	454	378	△76
	その他包括利益累計額		101	85	△16
	計		555	463	△92
負債･純資産 合計			1,302	1,328	26

2. 財務の状況

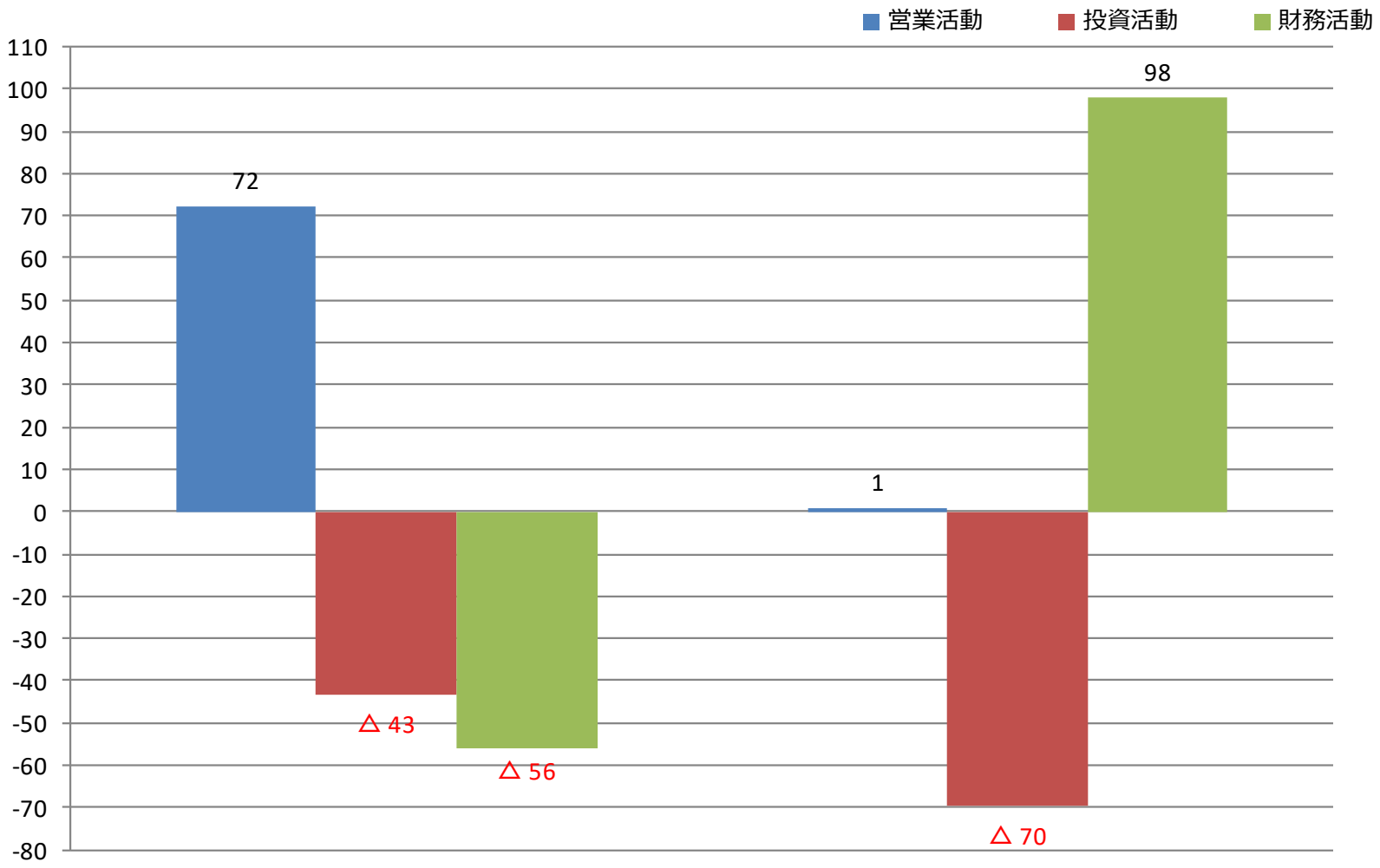
(2)主要財務指標の変化

	前年同期		Q2累計	評価
自己資本比率	45.0%	↘	34.9%	悪化
D/Eレシオ	0.85倍	↗	1.37倍	悪化
D/EBITDAレシオ(年換算)	27.2倍	↘	△7.2倍	悪化
純利益/自己資本(ROE)(年換算)	△4.2%	↘	△26.2%	悪化
純利益/売上高	△2.2%	↘	△13.6%	悪化
売上高/総資産	0.9回転	↘	0.7回転	悪化
総資産/自己資本	2.1倍	↗	2.6倍	増加

2. 財務の状況

(3)キャッシュ・フローの推移

単位：億円



()内はフリーＣＦ

前年同期 △27(計+29)　　Q2累計実績 +29(計△69)

3. 資源セグメントの状況

前期比△28.8億円
⇒内、CBH社営業利益△24.7億円
(内、市況等他律要因△17.1億円)

①エンデバー鉱山
前期比△15.3億円(内、市況等他律要因△8.9億円)
他律要因を除くと△6.4億円の減益⇒品位低下や減産などの要因から単位当たり製造原価上昇
②ラスプ鉱山
前期比△8.2億円(内、市況等他律要因△8.1億円)
他律要因を除くと△0.1億円の減益⇒高品位鉱の採掘遅れによる生産性の悪化はあったものの、期首の安い在庫の払出によるプラス効果（Q1）でほぼ相殺
③その他（期ずれ等）
前期比△4.1億円⇒期ずれ調整△0.7億円他

利益(億円)		前年同期	Q2累計	差(実額)	
CBH社営業利益	エンデバー鉱山	2.8	△12.5	△15.3	①
	ラスプ鉱山	9.5	1.3	△8.2	②
	その他	1.2	0.0	△1.2	
	計	13.6	△11.1	△24.7	
その他（期ずれ等）		△15.6	△19.7	△4.1	③
資源セグメント利益		△2.0	△30.8	△28.8	

Ⅱ．　個別案件

1．　8月9日当社HP掲載の「非鉄スラグ製品」のその後の状況

会計的には、Q1までの累計18.8億円への追加として、Q2決算において約４億円を費用計上しましたが、当該案件に関連した費用総額のイメージは8月9日時点から変更はありません。

具体的な対応としては、ステークホルダーとしての地域住民の皆様の安全安心を第一に、問題箇所の早期撤去を最優先に進めているところです。

2．　CBHエンデバー鉱山

8月9日のIR説明資料に記載の通り、 Bエリア（DZL） は11月に評価判明の予定です。ただし同エリアの経済性の有無にかかわらず、11月以降の対応については、あらゆる選択肢を検討中です。

Ⅲ． 通期業績予想（含む配当）及び今後の対応方針

1. 通期業績予想（含む配当）の考え方

前述の非鉄スラグ製品に関連し、8月9日公表時点での費用総額のイメージの範囲内で新規対応箇所の増加や対応費用の確定化により、年度内に引き続き会計上の費用計上の可能性が残っております。将来へ先送りすること無く、可能な限り年度内での費用化に努めたいと考えておりますが、Q2決算公表の段階ではすべての見積もりは難しい状況です。

また、業態の特性上、金属相場、為替相場と言った市況前提の業績に与える影響が大きく、Q2決算発表の時点では、今後の市況動向次第での業績の上昇・下降余地が大きく、ある程度年度の状況を見通したいと考えます。

このような状況から、Q2決算発表段階での通期業績予想の修正は見送り、予想の精度の高まるQ3以降に判断を行うことといたします。

従いまして、配当予想の修正もそのタイミングに合わせて実施したく存じます。

2. 今後の対応方針

新規鉱山での大型投資や非鉄スラグ製品の処理対応が、市況悪化を主因とする業績悪化に重なり、当社主要財務健全性指標も悪化しております。メインバンクの引き続きのサポートを受けつつ、資産構成の見直し等の自助努力を鋭意検討・実行し、早期の財務健全性の回復へつなげてまいる所存です。

Ⅴ. 2019年度 感応度

	変動幅	2018年度試算		2019年度試算		増減	
		連結営業利益影響額	内CBH	連結営業利益影響額	内CBH	連結営業利益影響額	内CBH
亜鉛	$10 / t	¥50百万	¥34百万 (豪$410千)	¥56百万	¥40百万 (豪$500千)	+¥6百万	+¥6百万 (+豪$90千)*
鉛	$10 / t	¥28百万	¥23百万 (豪$280千)	¥33百万	¥28百万 (豪$360千)	+¥5百万	+¥5百万 (+豪$80千)*
円/米$	1円 / 米$	¥64百万	–	¥64百万	–	¥0百万	–
米$/豪$	0.01	豪＄3.7百万	同左	豪＄2.8百万	同左	△豪$0.9百万	同左

円換算は79.0円/豪$を使用

＊ 2018年度は年内精鉱生産量の1/3につき、キャップとフロアーを固定したオプションを契約しており、市況感応度はキャップ・フロアー内の市況を前提としたが、2019年度はこのような影響がないために影響額が増加した。